

100年以上伝わる伝統芸能を次代へ

田代小児童が上柴立棒おどり披露

地域伝統芸能の継承として田代小が取り組む「上柴立棒おどり」。夏休みから練習に励んだ5・6年生の児童25名に教員を含めた30名が、六尺棒おどりなど3曲を9月26日の運動会で披露しました。「甚句節を歌いながら舞う子もいた」と練習では見せなかった成長した姿に、保存会の南園高樹会長も目を細めていました。



100年以上前に加世田から伝わったとされる上柴立棒おどり。地域独自の文化と融合して継承され、踊り手同士の距離が近いのも特徴。

宿原小からは4名の児童が参加。6年の厚ヶ瀬美咲さんは料理人やファッションデザイナーなど3人の講師と意見を交わしました。



「さあ、未来の自分にワクワクしよう」 オンラインお仕事バイキング開催

9月28日から2日間、町内6小学校の5・6年生126名を対象に、将来の夢や仕事について考えるキャリア教育として「お仕事バイキング」を開催しました。事前アンケートにより、サッカー選手やプログラマーなど17の職種からそれぞれ最適な講師を選択。講師が向き合う仕事への姿勢に真剣な眼差しで耳を傾けていました。

介護や福祉をはじめ建設や交通、商店、農業法人など幅広い事業所が参加。認知症当事者の立場から自分たちにできることを模索しました。



認知症フレンドリーコミュニティ構築へ 相手の視点に立った社会を目指す

「認知症だから何もできないと思わないで。心配や制限よりサポートを、否定ではなく一緒に考えて」と訴えたのは39歳で若年性認知症を発症した丹野智文さん。今月2日に行われた講演会には幅広い業種の町内事業所から約80名が参加し、講演後は誰もが安心して暮らせる地域について考え参加者同士で意見を交わしました。

資金調達から制作まで自分たちの手で 思い描く理想の公園づくり始まる

老朽化で遊具が撤去され魅力を失った児童公園を、誰もが利用しやすくなる公園にしたいと昨年から始まった「みんなのツリーハウス計画」。CFで調達した資金で木材やペンキを購入し、今月2日から全5回の日程でスタートしました。初日は町内外から小学生10名が参加。指導を受けながら慣れないハシゴ作りに奮闘しました。



ツリーハウスビルダー中里修一さん（右上）の指導を受けて、組み立て前のハシゴにペンキを塗る堀ノ内陽太くん⑤と永田修也くん⑥。

今年は小トトロやバス停も登場。サプライズを狙い前日夜に設置しました。来年行われる大根占小学校150周年タオルで作ったマスクも着け感染防止を表現しています。



大根占小の正門にあの名シーン 運動会の朝にトトロ緑門

9月19日、大根占小で行われた運動会に映画「となりのトトロ」のキャラクター緑門が登場しました。昨年に続き2回目の取り組みで、宮脇宏崇PTA会長を中心に有志6人で5日間かけて制作。クリのいがで作った「まっくろくろすけ」やバス停にプログラムを貼るなどの工夫を凝らし、映画の名シーンが忠実に再現されました。杉の葉が枯れるまで設置される予定です。

コロナ禍で見学制限や弁当なしの運動会 アイデアと工夫で特別な思い出に

9月4日から町内8小中学校で運動会や体育祭が行われ、リレーや応援合戦など練習の成果を披露しました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策としてプログラムの短縮や参加者を制限して開催。各地でイベントや行事が相次いで中止されるなか、感染対策を模索しながら、一生の思い出に残る特別な時間を過ごしました。



ほとんどの学校が参加者を保護者のみに限定し、昼食なしの午前中開催で行われました。写真は田代中で披露された白熱の応援合戦。

「経験上、停止線のない交差点での事故が多く危険。止まって左右を確認してほしい」と話す錦江町田代の東郷警務さん（右から2人目）



錦江警察署と南大隅高校自転車部が協力 自転車の安全運転を訴え動画撮影

9月21日から始まる秋の全国交通安全運動を前に、南大隅高校で安全な自転車運転利用を訴える動画撮影が行われました。14日の撮影では同校自転車部の5人が「自転車安全運転の5か条」を力強く宣言。運動初日、錦江警察署で行われた出発式や広報車で流されるなど、コロナ禍における新たな周知・啓発活動となりました。